

# ＜大物用落とし込みダブルギャフの取り扱い説明書＞

—大物取り込みシステム（ニューモデル）、型式：WG8210BO—

30年の使用実績、大物巨魚の取り込み多数

製造販売：服部商会

大物用落とし込みダブルギャフとそのシステム及びギャフ掛け方法（取り込み方法＝やり方）は特許、特許全八項

目：特許第4988949号及び特許第4988970号

「落とし込みダブルギャフ」は登録商標：登録第5540603号

本大物取り込みシステムと別述の巨魚取り込みシステムとは基本的には同じものです。大物取り込みシステムに滑車を組み付けて魚の重量（W）の1/2の力（ $W \times 1/2$ ）で上げられる様にした物（人の力= $W \times 1/2$ ）が巨魚取り込みシステムです。巨魚取り込みシステムに付いては該当説明書を参照してください。これに対して、本大物取り込みシステムは、魚の重量（W）をフルに力で上げる物（人の力=W、通常の引上げは皆これ）です。巨魚用は、安全確実な支点の設置が必須であり、一般の釣り人が、ボルトの使用無しに、堤防で其れをやる事は難しいと思いますので、堤防での使用では、魚の予想サイズに関わらず、本大物取り込みシステムを御利用ください（巨魚用の堤防での使用は原則禁止、理由は巨魚用の説明書で詳述）。スタンディングからの取り込みには本大物用がベストマッチ、又置き竿ファイト（確実な支点が可能）には、巨魚用がベストマッチです。

## 1) 仕様

型式：WG8210BO

一寸法（設計値）—

ギャフ（カエシ付き）：主軸径9mm、フック軸径8mm、全長21cm、全幅11cm、高さ10cm、フトコロ（ゲーブ）8cm、フック幅10cm

ロープ：径10mm×長さ15m（ナイロン編みロープ）

システム総重量：1403g（うち、ギャフ自重345g）

適用範囲：7kg～28から30kg（二人だと50から55kg、耐強度はフック一本で70kg）

適用高距：3（ルアーは2）m～14m

材質：ステンレス（フック部—高強度鋼）

製法：ハンドメイド

対象魚：大型回遊魚（GT、磯マグロ、キハダ）、底物（アラ、クエ）等

## 2) 図面

図1

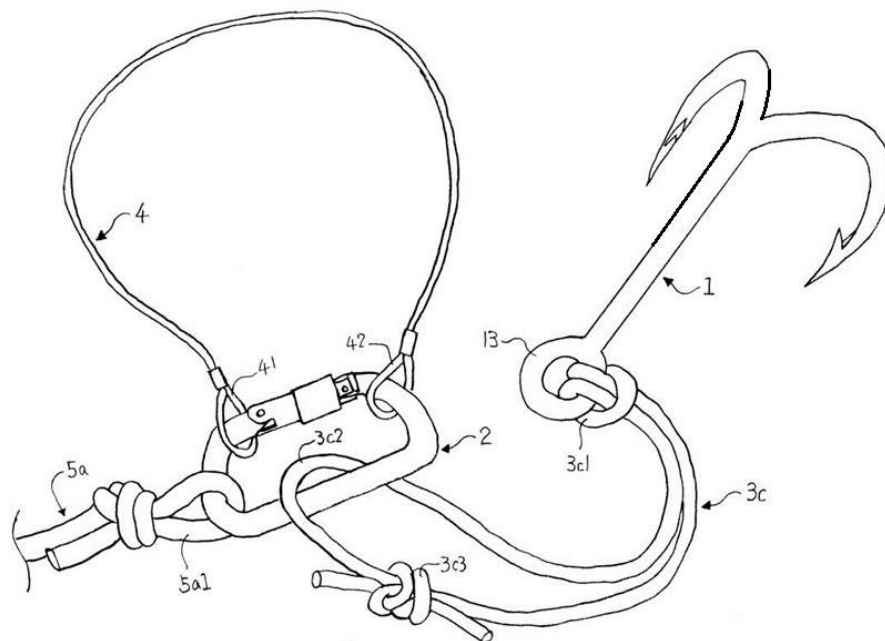


图 2

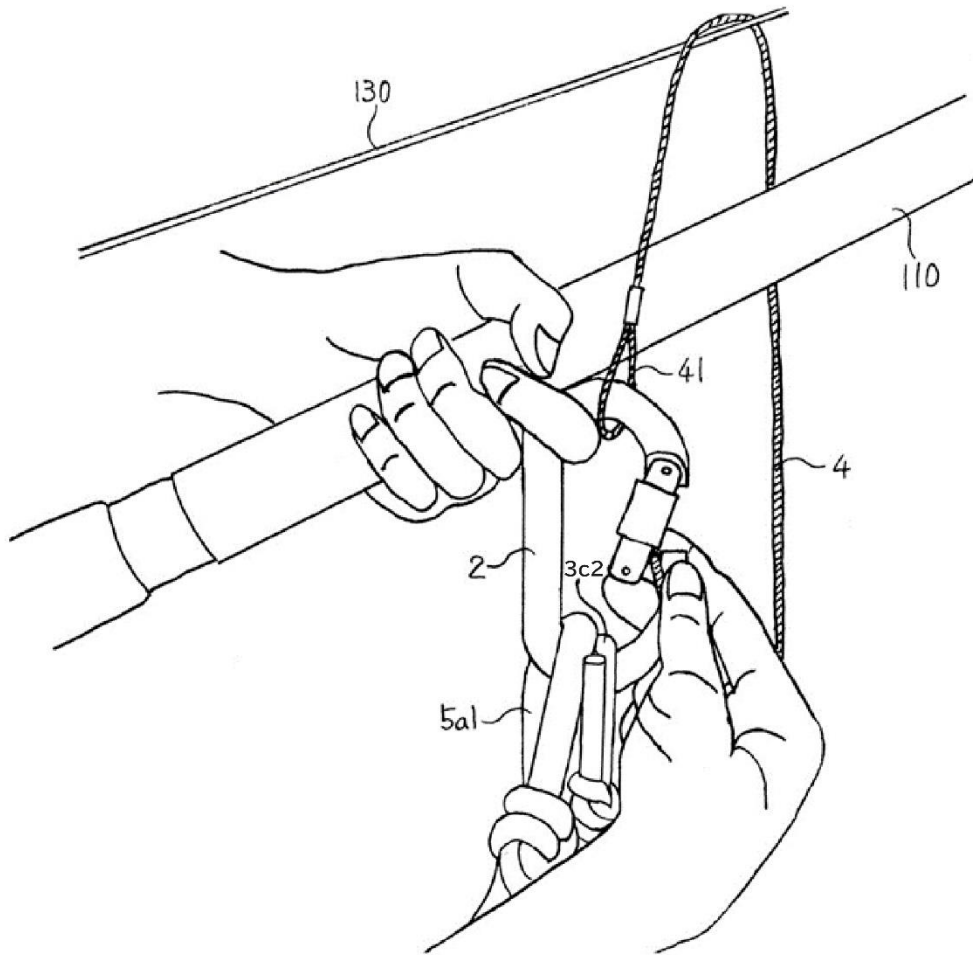


图 3

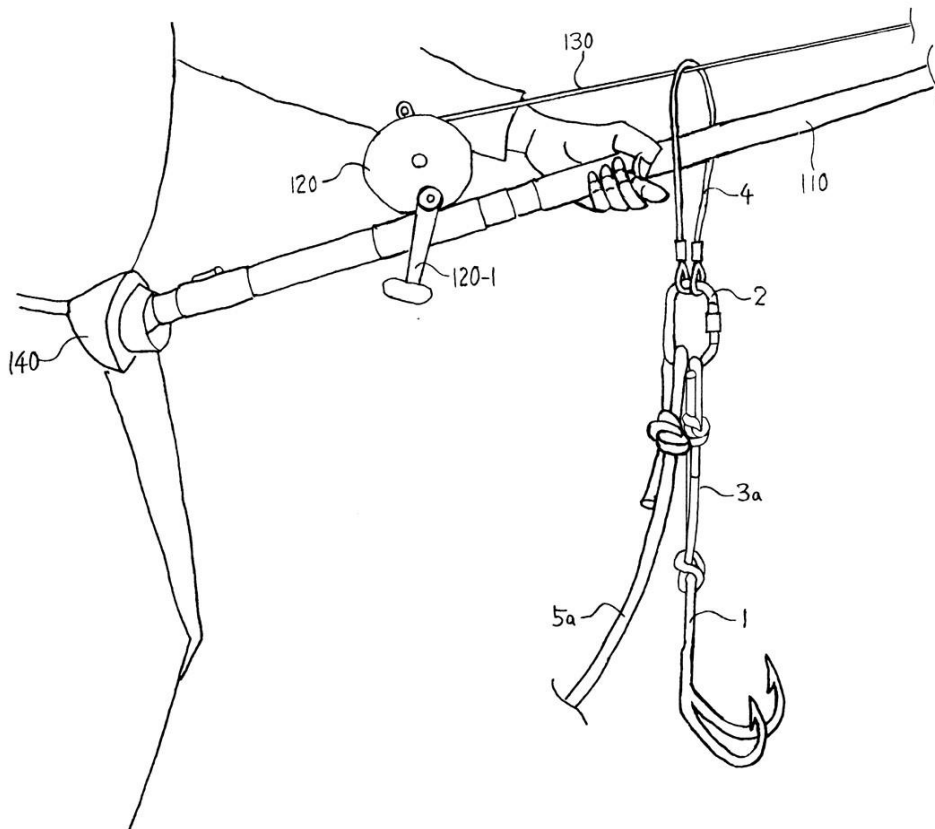


图 4

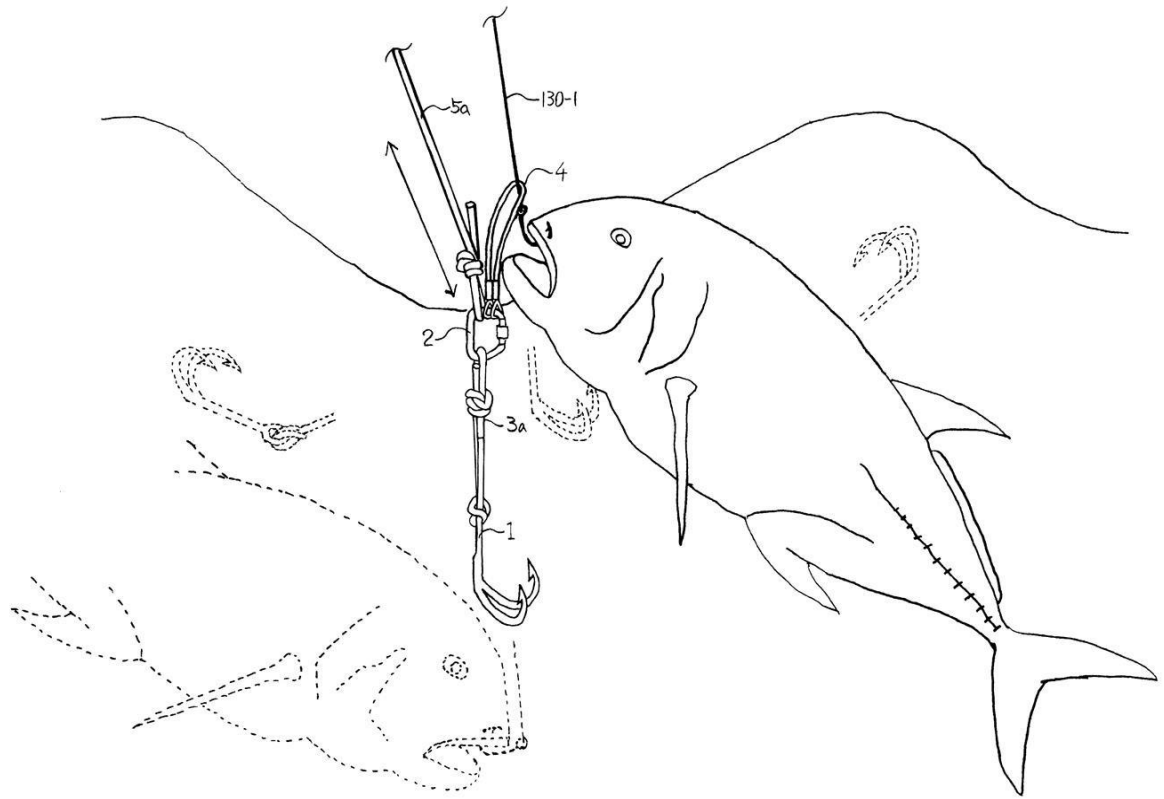
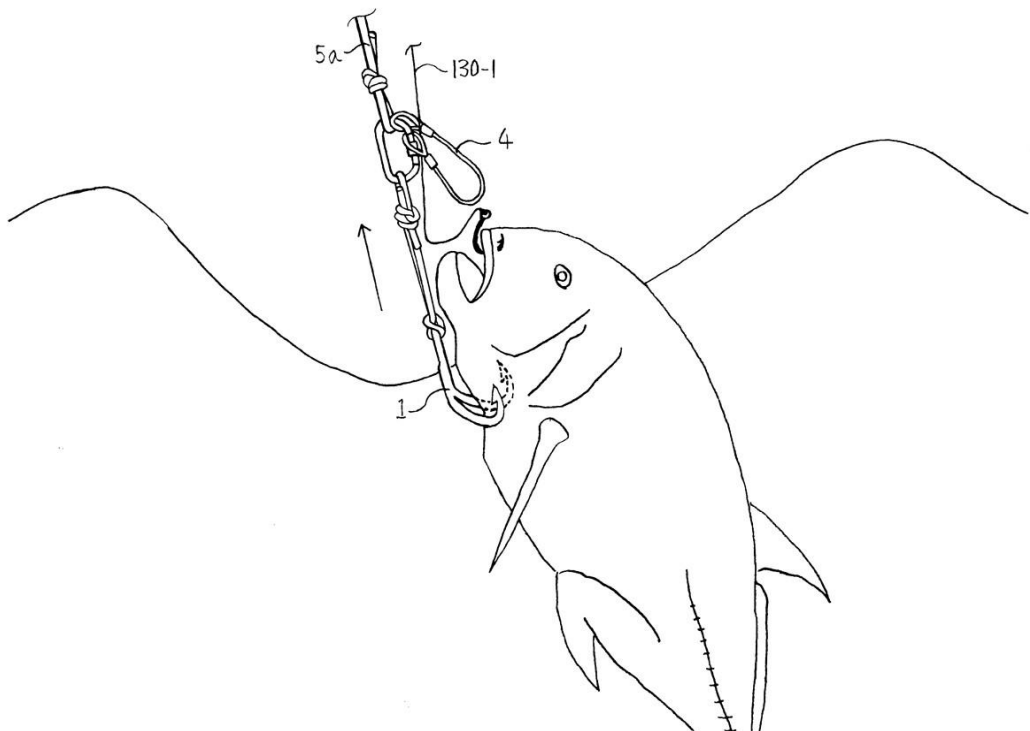


图 5



### 3) 図面の簡単な説明

図1は本大物取り込みシステムの全体図です（ラッピングワイヤー4両端の両ループ41, 42共閉じた状態を示す）。

図2は本大物取り込みシステムにおける、ラッピングワイヤー4巻き付けのキーポイントを示した説明図です。

図3は本大物取り込みシステムの竿へ巻き付けが完了した状態を示した説明図です。

図4は本大物取り込みシステムのギャフ掛けのメカニズムを示した説明図です。

図5は本大物取り込みシステムのフッキングのメカニズムを示した説明図です。

### 4) 序文

本大物用落とし込みダブルギャフは高場からの単独取り込みを高い確実性で可能にするものです。本大物取り込みシステムでは、巻き体(ラッピングワイヤー)4の一端42を事前に安全環付カラビナ2から外しておいて、取り込み時にリールの前側で、道糸130ごと竿110に巻いて、カラビナ2に掛けてやり、その後竿伝い、道糸伝いにギャフを落とす使い方をします(太軸—青物取り込みシステムと異なり、ガイド4をループ方式にして、竿尻から竿に通すやり方は本大物取り込みシステムでは禁止にします・理由は後述)。この点に於いて、道糸を手で掴んで道糸にガイドを掛ける従来方式とは基本的に異なります。本ギャフシステムの最大の利点は、単独での取り込みに於いても、竿を立てた状態を維持したまま(=ラインテンションの喪失無く)ギャフのセッティングを完了出来る事であり、且つ、リールのドラッグが機能しない状態を一時的にも引き起こす事無く(=高いサージテンションの発生無く)、ギャフのフッキングに到達出来る事があります。ギャフを落とす時には竿先を下げますが、此の時はリールを巻きながら下げる訳ですから、ラインテンションの喪失は起こりません。従来方式(ガイド道糸取り付け型ギャフ)で、ラインを手で掴めば、5m有る竿の弾力が無くなるわけですから、魚が手前に突っ込んだ場合等に、ラインテンションの喪失は避けられません。又、この状態では既に竿は横に置かれている訳ですから、リールのドラッグは機能しません。この時、魚が向こうに引っ張れば、高いサージテンションの発生は避けられません。これに対して、本ギャフシステムでは、単独であっても、竿の弾力とリールのドラッグ機能のこの二つを同時に維持したまま(=魚のコントロールを維持したまま)、ギャフのフッキングに到達できます。

これにより、本大物用落とし込みダブルギャフとそのシステム、及びギャフ掛け方法(取り込み方法)は特許が認められました(特許全八項目、特許第4988949号及び特許第4988970号)。其の詳細は特許庁ホームページの特許電子図書館で確認できます(「落とし込みダブルギャフ」は登録商標、登録第5540603号)。

### 5) 基本説明

本品は、大型回遊魚(GT, 磯マグロ、キハダ)、底物(アラ、クエ)等を主体として、7kgから28kg~30kgの魚を対象とします(二人いれば50kg~55kg可能)。28kg~30kg(二人で50kg~55kg)という数値は、ギャフ自体1の強度限界を示すものではありません。堤防又は磯表面の摩擦抵抗がこれに加わりますから、此れの何割かアップの数値が実際には手に掛かることとなります。加えて、釣り人はファイトで腕力を消耗しておりますので、上記数値が取り込めるかどうかは、ギャフの問題ではなく、本人自身の問題です。ギャフ自体の耐強度はフッカー一本で70kg(=設計値)ですが、強度は熱による組織変化により、個体差があり、本品はこの数値に関して、如何なる保証も致しません(参考値として留意し、壊れない範囲で使ってください)。本品はその素材に高強度鋼を使用しており、これは一般鋼種(SUS304=18-8ステンともいう)ではありません(市販の殆どのギャフがこれ・これでない場合、その事を明記しているはず)。SUS304は軟材であり、熱によって組織変化は起きず、焼きも入らない(焼き入れしても硬くはならない)為、強度を高めるには軸径を太くする他なく、数十キロの魚を相手にするには、12mm以上の軸径が無いと使う気になりません(まともな魚を相手にするには少なくとも10mmは必要)。本品使用の高強度鋼は軸径8mmですが、SUS304の8mmとは強度のレベルが全く違います(素材の値段も数倍)。

8mmのSUS304ギャフが、推定30kg位の魚で、口が開き、魚が落下するシーンをこの目で何度も目撃しましたので、市販の多くのギャフが、実釣では30kg~40kgの魚に通用しないという事は、当方はわかっております。硬度=強度ではない(硬くなり過ぎれば脆くなる)ものの、ギャフは構造上片持ちであり、その実質的耐強度はその硬度に大きく依存します。SUS304素材の最大の特徴(長所)は防錆力の高さ(=錆びにくさ)であり、その高い防錆力はカーボン含有量の少なさにより実現します。カーボンは錆の要素です。然し、カーボンは硬度=強度を決定する要素でもあります。防錆力と強度とは比例しません。ザックリ言って、両者は反比例の関係にあります。「当社のギャフは錆びません」と強く主張する事は、「だから、当社のギャフは大物掛けたら、口が開くかもしれませんよ」と言っているようなものなのです。どちらが大事かという話です。ギャフにとって一番重要な要素は何ですか?「全く錆びない事」ですか?「強度」ですか?当会は強度こそギャフの命と考え、それに基づいて鋼種選定をしました(具体的鋼種番号は同業者に仕事のやり方を教える必要は無いので非開示とします)。防錆は手入れをちゃんとする事により可能ですが、大物を掛けた瞬間に口が開いてしまうギャフは手入れのしようがありません。

又構造上、当会ギャフは、システムの威力でギャフを掛けるのであって、フトコロ（ゲープ）の開きの大きさがギャフを掛けるものではありません。此の為ゲープをことさら大きくする必要が無い…これが、口の開きに対する耐力を考えた場合の、当会ギャフの第一の構造上のアドバンテージです。更に、湾曲部終点から針先端に掛けての針先端の軸線が緩やかに内側を向いており（これでちゃんと掛かります）、又逆側の針先端から湾曲部終点に掛けての軸線の下側の延長線に関して言えば、これはギャフ主軸に近づくのではなく、主軸からは離れる外側に向かって伸びる事になります。巨魚が掛かった場合、針先は貫通せず、針の外側に巨大な魚体が位置する事になりますが、魚の重心が、針先から湾曲部に掛けての軸線の延長線に一致するか近づく事となり、これは本ギャフでは、湾曲部後半から針先に掛けて緩やかに内側にカーブした部位が、魚の荷重を縦に受け、支える事を意味します。軸は縦に荷重を受けた時強く、横に荷重を受けた時に弱いのです。この構造により、巨魚を掛けた場合に、ギャフを引き開こうとする力に対して、当会ギャフは高い耐力を有します。此れが当会ギャフの第二の構造上のアドバンテージです。

これに対して、一般のギャフは、掛けやすさを求めて針先を外に向けて張り出させており一しかも張り出し部が直線一、（此処の所が当会ギャフと全く違う）、想定では、大物が掛かった時、此の張り出し部が魚体を貫通し、先端は魚体の外に出て、主軸を背側に曲げる事により主軸の延長線上に一致又は近づけるよう製作した湾曲部に、噛み込んだ魚肉を引き入れ、主軸の延長線に近い所で荷重を支えるという考え方に基づいた構造の物が多いですが、肝心の針先が魚体を貫通するという部分が、10 kgから15 kg位の大型青物なら、確かにそうなるでしょうから、その程度の魚ならこの考え方は通用するでしょう。然し、40 kg～50 kgの巨魚となると、魚体はギャフの大きさよりはるかに大きいので、針先は貫通せず、魚体に刺さるだけという事になります。そうすると、ギャフの主軸を中心に考えて、針先の軸は前方斜めに突き出しており、大きな魚体が針先に刺さった状態で魚体の中心はその上外側に位置し、本来重量を受ける予定にしていた湾曲部から大きく離れた外側に重心が来て、針先の軸（張り出し）には、その軸心に対して直角方向即ち横方向、即ち横下に引き開く方向に、強い力が掛かる事になります。前述の通り軸は（特に直線状部位は）縦に掛かる荷重には強いですが横方向に掛かる荷重には弱く、針先は伸びて魚は落下することになります。この構造のギャフが使えるのは針先が貫通するサイズの魚までです。

当会ギャフは炉で1200℃から1300℃位迄加熱して、叩いてカエシを切り、曲げて作っている鍛冶鍛造品です。加熱した状態で叩いておりますので、組織が締まり、強度が増しています。当ギャフは前記の通り、高強度鋼を使用しており、これは生の状態で既にSUS304素材の2～2.5倍の硬度があり、硬すぎて冷間加工（常温での加工）は不能、よって加熱して軟らかくして、叩いて整形しています（加熱もしないでベンダーで、数秒で曲がってしまうカカエシも無いSUS304製品とは手間が違いますし、材料代も違う）。更に作製したカエシをヤスリで補整しようとしても、まだ新しいヤスリが滑ってしまつてまともに掛かりませんから、特定部位に急冷による硬化が実現されている事が確認できます。

サンプルテストの結果、硬度表及び上記数点のアドバンテージから、本品は同径SUS304製品の約3倍又はそれ以上の強度を有していると推測しており、70～80 kgの魚にも余裕を持って対応できる筈ですが、前記理由から、数値は如何なる保証も致しません。

従来法では今まで、大物の高場からの取り込みには、フライングギャフ、イカリ型ギャフ（タコ足型一投げ込み方式）、ガイド道糸取り付け型ギャフ、落としダモ、大型長柄タモ等が使われてきました。然しながら、これ等の方法で、5 mを越える高場から5 kgを越える大物を、単独で（自分一人で誰の手助けも無く）、確実性高く取り込む事は、竿が短くて比較的簡単に道糸が掴めるルアーの場合を除いて、事実上不可能でありました（置き竿ファイトの場合、可能性あり）。二人の人間がいればこれらの技術のうちその状況に適したものを使用すれば可能な事なのですが、…単独では…。仮にたまたま其れが出来たとしても、其れはただ単に幸運ただけで、まぐれにすぎません。本発明の大物用落とし込みダブルギャフと其のシステムは大物の高場からの単独取り込みを可能にするものです（世界初！特許はその理由により与えられたもの）。

本ギャフシステムでは、十分に離れた高く安全な場所から、魚にギャフを送りつけ、フッキングさせ、約7 kgから約28 kg～30 kg（二人だと50～55 kg、巨魚取り込みシステムだと一人で約40 kg、二人だと70 kg）までの魚を足元まで上げることが、完全単独で、高い成功率でできます。然も高い携行性（持ち運び易さ、収納の容易さ）を有します。本ギャフシステムは、一人である事、距離がある事、更には魚が大きい事ですら、障害にならず、安定した姿勢を維持したまま、容易且つ確実にフッキングに到達できます（通常15秒から20秒程、長くても一分以内）。本大物取り込みシステムは、スタンディングからの取り込み（石鯛竿又はルアーGTロッド）に適しておりますし（以下の説明も其れに沿っています）、置き竿ファイト（アラ＝クエ竿）では巨魚取り込みシステムが適しておりますが、此の大物用を置き竿ファイト（＝磯からのアラ釣り）に使用する時は、竿受けにアラ竿を置いた状態でラッピングワイヤー4を竿に巻き、竿尻の固定ピンを外して、竿を傾け、ギャフを竿伝いに落とす形になります。本品は完全なるハンドメイド品です。

## 6) 事前準備

出荷時点でロープ5aの両端に作ったループの片方5a1（一端側）をカラビナ2に掛けてあります。輪にしたロープを解いた時点で、キンク（よじれ）が発生している様であれば、キンクを解消しなければなりません。キンクが発

生しているのに其れを放置したまま釣りを開始する事は、タモを組み立てないまま釣りを開始することに等しく、致命的です。ギャフを落とす時には片手は竿を支えている訳ですから、残りの片手しか使えません。ギャフを落とす途中でロープが纏れてしまったら、如何にもならなくなってしまいます。纏れはキンクが引き起こします。ロープギャフを使いこなす事はロープを使いこなす事と同義です。ロープには撚りロープと編みロープとがあり、本品は編みロープです。編みロープには撚りは入っておらず、本来、キンクは発生しません。然しながら、ロープは持ち運びする時には通常、輪にして持ち運びます。此の輪にする時に、巻く毎に捻ってしまっているのです（捻るつもりがなくともそうなります）。其のまま、両端を持って引き延ばせば、ロープ内に多数の捻じれが存在する事になります。此れがキンクを引き起こす要因となります。

此れを解消するには次の様にします。ロープ端のループ5a1をカラビナ2から外し、両端の結びを解いた上で、ロープ端を、手の甲を上に向けた状態で、左手で持ち、その横で親指同志がくっ付く形で、右手でロープを軽く持ちます。左手でロープを掴んだまま、ロープを持った右手を水平方向右に大きくスライドさせます。次に左手を右手横に持ってきて、再び左手でロープを掴み、右手を右に一杯までスライドさせ、此れを端までやります（言葉で言うことややこしいですから、当会シイラビデオ 5 出だしを参照してください）。右手をスライドさせる時に右手首を向こう側に少し捻りながらやると尚良いです。今度は反対側の端から同じ事をやります。此れを1～2回やります。此れでキンク（よじれ）は完全に取れます。この作業を、「ロープを扱く」と言います。両端に再びループを作り、その片方5a1（一端側）をカラビナ2に掛け、安全環をロックします。此の時、巻き体（ラッピングワイヤー）4の一端41をカラビナ2のゲートの固定側（反開口側＝安全環の上手側）に位置させ、且つ他端42はカラビナ2から外します。ロープ（ギャフ）の配置のやり方には二方式あります。第一の方式は「ジグザグ方式」で此れは見た目的にも分かりやすいのでビギナー向きです。ロープの一端をクーラー等荷物にカラビナ等で固定し、ロープをジグザグに配置し、他端にギャフが付いているやり方です。多く出されているシイラビデオにも主に此れが映っていますので参照してください。第二のやり方はループスライド方式＝「トグロ方式」でこれはどちらかというと、ギャフを既に使いこなされているマスター向きです（最初に出したビデオ「落とし込みダブルギャフ（特許）による取り込み実演」がこれ）。此れは以下のようにします。他端側（ギャフ1とは反対の側）から、ロープ5aを輪に巻き、他端側（ギャフとは反対側）が下に位置し、ギャフ1側が上に位置する様に、カラビナ2が指で掬い取りやすい状態で、足元近くの邪魔にならない場所に、注意を持って配置します。此れで準備は完了です。この作業は慣れれば一分程で出来る筈です。要するにロープギャフの事前準備とはバッグから出して輪を解いておけばよいという事ではありません。又、此の時、下側に位置している他端側（ギャフとは反対側）のループが横に出ている状態にしておくことが次の動作に都合がいいです（半とぐる状態の蛇の尻尾が横に出ている状態）。ロープシゴキも行わず、ギャフセットを無造作に足元に置いておくというのは論外。

## 7) 使用方法（特許）

上記事前準備に於いて、巻き体（ラッピングワイヤー）4の両端のループ41、42の片方42をカラビナ2から外すことにより、カラビナ2にはギャフ1のシュリング3c2を真ん中にして、手前側（シュリング3c2の背側）にロープ5aのループ5a1、先側（シュリング3c2の前側）に線状となった巻き体（ラッピングワイヤー）4の一端のループ41がゲートの固定ピン側（安全環の反開口側＝上側）に位置しています。巻き体（ラッピングワイヤー）4の他端42はカラビナ2の外に出てフリーです。此処までが事前準備で、釣り開始前に完了しておく必要があります。魚が掛かって、ファイトを経て、竿下まで魚を寄せました。此処から、ギャフ掛けの全ムーブの開始です。

①基本体勢を維持したまま、腰を少し下げ、右手（右ハンドルの場合、・・・ハンドルを操作する手とロープを操作する手は必ず同一）をリールハンドルから離し、右手の指を、ギャフセットの安全環付きカラビナ2に掛け、取る。

②次に、竿110を持っている左手の人差し指を開き、右手指から、左手人差し指にカラビナ2を受け渡す。この時、カラビナ2は長軸の、ゲートの固定ピンに近い方（反開口側）の湾曲部を左手人差し指で握る。各部材は重みがあるので、カラビナ2の反対側（開口部に近い方）の湾曲部に寄り、同湾曲部は下を向き、カラビナ2の安全環は前側に位置している。

③左手人差し指も合わせて竿110を握る。即ち、左手の他の四本の指は直接竿110を握り、左手人差し指はカラビナ2を間に挟んで竿110を握る事になる。

④次に、右手で、反対側42がフリーになってぶら下がっている巻き体（ラッピングワイヤー）4を掴み、竿110及び道糸130を越えて、反対側に投げ下ろす。

⑤すると、ワイヤー4は重みがあり、適度に柔らかいから、フリーの側42が竿110の向こう側に垂れ下がる。

⑥右手を竿110の下側から伸ばし、フリーになっている他端側ループ42を掴む。

⑦掴んだループ42をカラビナ2の開口部に押し当てやると、ワイヤー4は適度の硬さがあるので、開口部がバネに抗して、開き、パチリと言う音と共に、ループ42がカラビナ2内部に嵌まり込む(図2参照)。

⑧右手でカラビナ2の安全環を回し、開口部をロックする。此れで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの竿110への取り付けは完了した(図3参照)。

⑨次に竿110を傾けて落す訳であるが、大物用には両軸リールが使われる事が多く（スピニングリールの場合は其のまま落とせばよいので、此れは太軸—青物取り込みシステムの項で詳述しているのでそちらを参照・・・此処では説明しない）、両軸リールは竿110の上側に付いており、竿110上にはラインガイドが、立っている訳で、此れが落す際の障害になるので、まず、竿110を180度回転させ、リールを下側に向ける。

⑩石鯛竿又はクエ竿は、ラバークリップが長めに巻かれていて、此れはラッピングワイヤー4の滑りが悪いから、その先まで、手でラッピングワイヤー4をスライドさせなければならない。リールを下に向けたことにより、ハンドル120-1は左側に来ているから、右手でカラビナ2から出たロープ5aを掴み、右手の人差し指にロープ5aを掛けた状態で、右手で竿110を握る。即ち、右手の人差し指以外の指は直接竿110を握り、人差し指はロープ5aを間に挟んだ状態で竿110を握る事になる。其の状態で、左手でラッピングワイヤー4を掴み、ラバークリップの先まで、前進させる。

—以下はトグロ方式の場合の説明になります、ジグザグ方式は各ビデオを参照—

次に、足元に於かれたトグロ状態のロープ5aの末端のループを左手で掴み、此れを、竿110を持った右手の小指に受け渡す（即ち、此の時、竿110を持った右手は、人差し指でカラビナ2から出たロープ5aを抑え、小指にはロープ末端のループを掛けている）。

⑪次に、リールを巻きながら、竿先を倒さなければならない。右手人差し指のロープを離すと同時に、左手でリールを巻きながら、竿先をさげる（巻き方向が通常と逆になるので要注意）。ラッピングワイヤー4が竿先を通過したら、再び竿を立てる。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。リールを巻きながら竿先を下げるから、ラインテンションの喪失は起こらない。

⑫落とし込むと、ギャフセットは魚の口元に到達する。ギャフが落ちたら、ギャフ掛けの操作は右利きの人であれば、右手でやった方が上手くいくので、左手で竿110を掴み、右手小指に掛けた、ロープ5a末端のループを、左手の小指に受け渡した上で、再び竿を180°回転させ、リールを上に向ける。

⑬ロープを右手で持って、肘を支点に、鯛のテンヤ釣りをする要領で、手先を上下させてやると（図4の状態）、程無くズシリと重みが掛かる（魚を見て操作する必要は無い）。

⑭此れはフッキングした証拠だから、そしたら、一杯ロープを引っ張り上げてやると、ガシリとギャフが食い込む（図5の状態）。此れで、カエシが効いているので、ギャフ1が外れる事は少ないから、右手のロープを緩めて、その手でリールのドラッグを緩め、竿を置いて、両手で引上げを開始する。（以上テンヤ方式を説明しましたが、使いこなしてマスタークラスになれば、どのタイミングでアワセを入れれば効率よくフッキングできるか、はっきりと見えてくるはずですが・・・この点に関しての情報はHPの「本ギャフユーザーに対する助言」5）「何時合わせを入れたらいいの？」に関して、を参照して下さい）

**\*）注意（重要、必読）：**上記使用方法で述べた、巻き付け方式が本大物取り込みシステム（及び巨魚取り込み方式でも）に於いて、原則となります。太軸—青物取り込みシステムで標準とした、ループ竿尻通し方式（ガイド4の両端41、42共カラビナ2に入れてループ体を完成させ、---図1がその状態を示しています---、このループ体に右手首を通して、竿尻を掴む事によって此れを竿に通し、リールを越えてその前に出すやり方）は、本大物取り込みシステムでは禁止します（厳禁）。その理由は以下の通りです。ガイド端からフック迄の寸法が予想される魚の全長の一定範囲になっている事が高効率なフッキングを実現します（硬い頭の周辺を避け、其の下位置にフッキング出来る様になっています）。此の為、太軸—青物用は主として、1m前後の魚を取り込む様に作られているのに対して、大物用は主として、1.3m前後（青物体形で20kg、GT体形で30kg）又はそれ以上の魚を取り込む様に作られております。此の為、ループ方式を基本とした、太軸—青物用は竿尻を掴む時点に於いて、フック位置が膝頭より下には略行きません。此れに対して、本大物用をループ方式で使った場合に於いては、竿尻掴みの時点に於いて、フック位置が脛の位置まで来ます。次項（使用上の注意、A）で述べております通り、本システムは、ギャフ掛けのムーブに入る前に、ドラッグを少し緩めて、バランスを崩す事が無い様にした上で、同ムーブに入る様明記しております。然し、大物が初めてのビギナーが、頭の中がパニックだった状態で、此の注意書きを守らず、ドラッグを閉めこんだまま取り込みのムーブに入り、ループ方式で本大物用を手首に掛け、竿尻を握ったその時点で、魚が暴れ、突っ込み、其れにより、バランスを崩し、足をバタつかせ、其れにより、魚にギャフを掛ける前に、自分のズボンにギャフを引っ掛け、転倒といった事にでもなれば、重大事故になりかねません。竿の軸に対して、体を斜めに位置させ、左足を左側前方、右足を右側後方に大きく両足を開いていれば、上記の様なトラブル発生の危険性は軽減されると思いますが、頭の中がパニックだった釣り人の存在が予測できる以上、完全にはその危険は排除されません。頭の中がパニックってしまった釣り人が何をやらかすか、全く予測が付きません。上記の巻き付け方式（図2で示されたやり方の実行）では、仮にドラッグを緩めなかったとしても（その場合は、魚が突っ込めば、のされるだけ）、危険な事は何も起こりえませんが、簡単です。安全環付カラビナは釣り人には馴染みが無い物ですが、クライミング用品で、片手で操作できるように作られており、慣れれば大変使いやすい物ですので、慣れて下さい（事前に取り付けの練習をしてください）。膝頭より下にフックの針先がいかない太軸—青物用は、どういう使い方をして、危険な事は何も起こりえま

せんから、ループ方式で構わないのです。以上のような訳で、本大物用取り込みシステムに、ループ竿尻通し方式を実行する事は禁止(絶対禁止)とします。

## 8) 使用上の注意

A) ギャフ掛けのムーブに入る時は、ドラッグを少し緩めてバランスを崩す事が無い様にしてから、入って下さい。

B) ロープの他端側(ギャフとは反対側)をボディ(体)の何処かに固定する事は、危険ですから、絶対にしてはいけません(魚に引っ張られてバランスを崩す危険があります)。小指にループを掛けるやり方の他に、他端側のループにカラビナを掛け、石鯛竿の場合ですと、尻手環にこのカラビナを掛ける事もできます。

C) 中通し浮きにケミホタルを立てる事はできません。ケミホタルを使用する場合、ケミの長さより少し長めのチューブ(無ければストローの硬いのも可)の周りにケミをセロテープで巻き付けて使用する事も一つの方法です。この場合、上から、浮き止め、ビーズ、ケミを巻き付けたチューブ、ビーズ、浮きとなります。ケミとチューブの間に隙間ができないように、ケミの両側でセロテープが台形状になるように巻いてください。浮きの後ろに隠れて一時的に光が見えなくなる事はありますが、魚の引き込みと一時的な光の喪失との区別は、明確でありますので、実釣に於いて、何も支障はありません。

D) 夜釣りで竿先にケミホタルを取り付ける場合も、ケミの両サイドに隙間が出来ない様に(隙間にラッピングワイヤー4が嵌まり込む事が無い様に)、セロテープがケミの両サイドで台形状になるように、竿先に巻きつけてください。

E) 仕掛け周辺をラッピングワイヤー4がスムーズに通過出来る事を事前に確認して下さい。スムーズにいかない場合は、何か「角」が存在している筈ですから、その「角」を解消して下さい。

## 9) 保守管理

本品はステンレスですが、使用后放置すれば、含有カーボンの影響により、多少の錆がきます。Stainlessとは錆びないという意味ではなく錆びにくいという意味です。ステンレスにはその組成により、多くの鋼種があり、本品は高強度鋼を使用しておりますが、本品鋼種は、一般的な鋼種(SUS304,等)に比較して、強度面に於いて勝りますが、防錆力に於いて劣ります(これは、防錆力、冷間加工が出来ない事、鏡面仕上げの難しさ、入手のしづらさ、コスト高といった問題より、強度を優先した結果です)。釣行後は速やかに水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取って、防錆油を吹き付けた後、其れを乾いた別の布で軽めに拭き取り、保管する事をお勧めします。その時点で既に錆がきていた場合はサンドペーパー等で錆を落とした上で同作業を行ってください。釣行前には必ず針先のチェックを行い、鈍っていれば、必ずヤスリ又は砥石等で針先を研いで、油を針先に塗布して、持参してください。針先が鈍って魚体表面を滑ってしまつてはフッキングしない訳です。本ギャフでは針先の鋭さは手の甲に当ててチクリと痛みが走る事が必要です。チェック方法は、左手親指を立て、第一関節から先を内側に曲げ、爪を水平にします。その爪に、右手で持ったギャフの針先を垂直に当てます。その状態でギャフを横にスライドさせます。爪上をギャフが滑ったら(=スライドしたら)ダメ→研ぐ必要があります(出荷時点では爪に垂直に当てれば爪に刺さる様になっています)。磯でなく堤防であっても、コンクリート表面には固い小石が混ざれている事が多く、凹凸が激しいです。魚の重みが掛かった状態で、フッキングしていない残りのフックが表面を擦りながら、上がってくることになる訳ですから、ギャフは過酷な仕事をさせられます。ユーザーの、針先の鋭さに対する感性が無かったら、本ギャフはその能力をフルに発揮できません。本ギャフは、基本設計として、フックの針先の外接線がリングの支点位置に近づくよう、フックの針先を内側に曲げています。従来のギャフは掛ける事だけを考え、針先を外に向けてきました。本ギャフでは、そのシステムの威力が絶大である為、針先の張り出しや、フックの本数に頼る必要はありません。フックの針先が内側に向いているため、魚引き上げ時には、リング13が起き(堤防表面から離れ)、フッキングしていない残りのフックの針先は表面を擦るのではなく、表面から浮く(離れる)形となります。此れにより、フッキングしていない残りのフックは、表面の小規模な凹凸は、擦るのではなく、かわすことができます。此れは針先の鈍りを抑えるのに役立つでしょう。本ギャフは、掛けるのはシステムの方で掛け、引上げ時の障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。以上の工夫をしている訳ですから、高い感性を持って針先の鋭さに常に注意を払ってください。本落とし込みダブルギャフは「ギャフ」の名称で特許が取得できた日本で唯一の製品です。其の機能の高さは公正な第三者により認められたものであり、本ギャフを使いこなす事(=ロープを使いこなす事)は必ずや貴方の釣果向上に役立つでしょう。

## 10) システム仕様



システム	ロープ	高距 (m)	取り込み限界 (概略、k g)		要件
			一人の場合	二人の場合	
太軸—青物取り込みシステム	6φ—1.5m	1.4	20	35～40	無し
大物取り込みシステム (本品)	10φ—1.5m	1.4	28～30	50～55	無し
巨魚取り込みシステム	9φ—3.0m	1.4	40	70	足場回りでの支点

(太軸—青物用は、大物用を簡易化して機動力を高めたシステムであり、巨魚用は大物用に滑車を組み付けて半分の力で上げられるようにしたシステムです・・・三点の違いは単にロープの太さの問題だけではありません)

製造販売、服部商会

〒862-0901 熊本県熊本市東区東町 4-16-9-406

TEL : 096-365-0269